

Pearl Lam Galleries

上海

石塚沙矢香「命を紡ぐ (Life threads)」展

作家・石塚沙矢香の海外初の個展、お米で構成されたインスタレーションを中心に、今展の為に制作された新作シリーズを発表します。



上：Waiting#1 (2014), 米、糸、古い糸巻き、13×9 cm (5個)

下：Genetic (部分) (2014), 木製パネル、箸、45×453×4.5cm

展覧会日程

2014年5月12日(日)～8月23日(土)

月曜日～日曜日、午前10時30分～午後7時

オープニングレセプション：5月11日(日) 午後4時～6時

Pearl Lam Galleries 住所：上海江西中路181号一階

上海—Pearl Lam Galleries 上海にて、石塚沙矢香個展「Life threads 命を紡ぐ」展を開催する運びとなりました。同日本人新進作家が今展のために制作した新作11作品が発表されます。展示作品は、石塚の代表的な作品、お米を使ったインスタレーション作品の他、絵画や木のパネルに様々な色彩の箸をコラージュした作品、米をライトボックスにコラージュした作品、そしてビデオ作品等となります。

彼女の作品は日常品やそれを使用する人々の物語の関係性を探り、そこに焦点をあてています。日本の昔ながらの文化では、単なる「物」にも魂が宿るといわれることがあるように、その「物」に人々の感情や記憶を見いだします。作家は、誰もが知っているが見過ぎてしまう日常にある物、例えば米粒、壊れた食器、着古した着物、家庭用品、などを素材としています。これらは

糸に結びつけられ空間の中に吊るされ浮遊します。このように空間に配置することによって、それらの物の持つ歴史や感情、意味を顕在化させた作品となります。展覧会名”Life threads”とは「人々の想いと共に丁寧に命の糸を紡ぎ、繋いでいって欲しい」という作家の想いが込められています。

今回の展覧会のために新しくつくられたインスタレーション「Rice deity 米の神（2014）」は、約4200本の米の糸と使い古された日常品、上海の骨董市で見つけた古いテーブルで構成されます。この作品の最初の構想は2009年お米で有名な魚沼エリア、越後妻有でのプロジェクトでした。石塚は制作に18ヶ月を費やしました。作家自ら米作りの体験をし、現地の人々の生活や米についてのリサーチを6ヶ月間行い、美しいお米の姿の再発見をしました。米は種子であり命の始まりでもある、清らかな大地の恵みと共に心に暖かく沁み込む日本人にとって重要な食べ物です。彼女にとっての米の糸とは、過去、現在、未来を途切れることなく結ぶ命の繋がりを象徴するものです。

日本と同じように米の食文化を持つ現代都市上海で作品を発表する事について、作家はアジア（中国）には米を食べる文化がある事に親近感を覚えると話している。また、上海で見つけた古い日常品は上海の人々が作品を観た時に彼らの記憶を呼び覚ます役割を果たすことでしょう。

参考画像（FIGo）「Waiting#1（2014）」は米の糸と日本の古い糸巻きでつくられた作品です。糸に繋がった小さな米粒は命を繋ぐための出番を待っているようにみえます。金や銀の糸を使って命の輝きを表現しています。

また米を素材としてつくったもう一つの作品「Journey（2014）」はLEDで発光するアクリルボックスに米を貼付け船のような種子のような形をえがいています。ミクストメディア絵画「降りそぐ（2014）」はRice deity のインスタレーションのイメージに近い絵画表現です。綿の糸やお米の糸をキャンバスに貼り、赤・緑・金色の下地の上から黒の油絵の具により闇を描き、米の糸があるエリアを繊細に削り出し白い線を描いています。「Sleeping（2014）」も闇の中で眠る命の糸のイメージを同じような手法で描き出している作品です。

「Connection」「For the future」「Genetic」の3作品は箸を素材としている作品です。かつては箸供養をして納めていたほど人々の想いの入っている箸、箸は食べ物と体をつなげる大切な道具です。この作品は作家の友人たちから譲り受けた使い古しの箸で構成されています。金や銀の糸で巻かれた箸は命が輝かしく繋がって欲しいとのいう意味合いを持っています。グラデーション状に並べられた箸は命の受け継がれている様を表現しています。横長の構図はと古い巻物のイメージとかさなります。

石塚沙矢香

1980年静岡生まれ。2004年女子美術大学卒業後、インスタレーションを主に発表。普段見過ごしてしまいそうなささやかな物を使って、場所や物が持つ目に見えない感情や記憶、時間性（過去）を想起させ、可視化する作品を制作している。

静謐な雰囲気を持ち合わせた彼女の作品はシンプルで力強い。また素材の選択や設置方法は日本的な美意識を多く含んでいます。

東京と神奈川を中心に個展を開催。2009年にはニュージーランドのウェリントン・アジア、アーティスト・イン・レジデンスに参加し、越後妻有アートトリエンナーレ2009、瀬戸内アートトリエンナーレ2013、などの参加アーティストです。現在、神奈川県大磯にて制作をしています。

Pearl Lam Galleries

香港出身のPearl Lam（パール・ラム）によって設立され、アジアのコンテンポラリーアートシーンを牽引するギャラリーです。

20年以上にわたり、アジア、西洋美術・デザインの企画展を開催し、コンテンポラリーアート界で最も評価が確立されたギャラリーのひとつです。

中国・アジアンコンテンポラリーアートを突き動かす国際的な活力ある役割を担い、地域からの文化的実践をする試みを行っています。さらに香港、上海、シンガポールの著名なキュレーターたちによるコラボレーションによって、巨匠の展覧会やプロジェクト、コンセプチュアルなグループ展を特別企画しております。中国のリテラシーすなわち階層化された美術の枠組みではない哲学によって、Pearl Lam Galleriesは交差する文化の交流を通じ、境界を横断するユニークなギャラリーモデルを展開しています。

ギャラリー所属の中国現代抽象作家はとりわけ重要で、国際的に評価を得ている中国人作家ジュ・ジンシとス・シャオバイは世界中にコレクターを持ち、各地パブリックコレクションされています。また、地位を確立している海外作家、ジョニー・ホルツァー、ジム・ランビーやイニカ・ソニバレなどを新しいアジアの観客へ紹介する機会も、設けています。Pearl Lam Galleriesでは国際的な作家が文化に関連したコンセプチュアルな作品を地域と共同で作り上げることに従事することに尽力しています。

すでに有名なデザイナーや国際的な新進デザイナーもPearl Lam Designでは作品を発表しています。世界のデザインフェアで発表しているモッタ・ボネッティ、アンドレ・デュブレ、スタジオマッキン&ベイたちです。彼らは伝統的な中国美術と工芸品技術、新しい中国での経験を反映した世界へと人々を招き入れます。近々上海で、デザイン専門のギャラリーとコンセプト・ストアがオープンします。

以上

お問い合わせ

Megan Leckie / Pearl Lam Galleries
megan@pearllamfineart.com / +8621 6323 1989

Erica Siu / Sutton PR Asia
erica@suttonprasia.com / +852 2528 0792

www.pearllam.com